

## 医学研究科医科学専攻 修士課程 遺伝カウンセリング学の3つのポリシー

### 卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

設置するコースは、高度の専門的職業人の養成に重点を置き、加えて遺伝カウンセリングの指導者、さらに現場より抽出された課題についての遺伝カウンセリング研究の実践可能な能力を養うことを目的とする。

よって以下の通りディプロマ・ポリシーを定める。

### ディプロマ・ポリシー

1. 保健医療に関する情報を多面的に理解し、科学的・論理的に考察することができる。
2. 遺伝カウンセリングに関する歴史、定義、理論、面接技法などの専門的な知識・技術に基づいて遺伝カウンセリングを実施できる。
3. クライアントとその家族の多様な社会的背景、価値観など、ナラティブな側面に配慮しながら信頼関係を構築し、高度の倫理観と使命感も持って遺伝カウンセリングを実践できる。
4. 豊かなコミュニケーション能力を有し、多職種と協働できる。
5. 遺伝カウンセリングにおける課題を論理的に分析し、その解決に必要な研究を実践できる。
6. 国際的な視野に立ち、遺伝カウンセリングに関する文献や情報を得ることができる。

本課程では、所定の修業年限（2年）に在籍し、人材育成の目的に沿って設定した授業科目を履修して修了要件となる単位を取得し、特定の課題の研究成果の審査および試験に合格したものに修士（医科学）の学位を授与する。

## 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

ディプロマ・ポリシーを達成するために、「基礎科目」、「専門科目」、「遺伝カウンセリング系科目」、「実習・特別研究科目」を組み合わせたカリキュラムとする。様々なバックグラウンドのある学生に対応できるように以下の通り教育課程の編成を行う。

### カリキュラム・ポリシー

1. 医学や保健医療の基本的な知識、理論を学ぶため、基礎科目として「保健医療概論」、「ヒトの解剖・生理学」、「医療統計学」を配置する。
2. 遺伝カウンセリングの基盤を学ぶため、遺伝医学系の専門科目として「基礎人類遺伝学」、「臨床遺伝学Ⅰ」、「臨床遺伝学Ⅱ」、「遺伝性腫瘍・がんゲノム医療」、「ゲノムバイオインフォマティクス基礎」を配置する。
3. 遺伝カウンセリングの概念から知識・技術、倫理的側面を学ぶため、遺伝カウンセリング系科目として「遺伝カウンセリング概論」「遺伝カウンセリング演習」「遺伝カウンセリング実践論」を配置する。
4. コミュニケーション能力、多様な社会的背景、価値観など、ナラティブな側面への理解を涵養するため、徹底したロールプレイを取り入れた科目を専門科目と遺伝カウンセリング系科目に複数配置する。
5. 実習・特別研究科目の「遺伝カウンセリング実習」は、本学附属病院を中心とし、多彩な疾患の遺伝診療、遺伝カウンセリングに、様々なクライアントがセッションに満遍なく陪席をする。陪席したのちは遺伝カウンセリング記録を作成し、教員からのフィードバックを得る。
6. 実習・特別研究科目（遺伝カウンセリング研究）として、遺伝カウンセリングに関する研究を実践するための研究計画の立案や研究指導を行う「遺伝カウンセリング研究方法論」、「課題研究」を配置する。
7. 医学研究科医学系専攻博士課程の共通科目「医療統計学」、「遺伝子操作研究法」は、本課程のディプロマ・ポリシーにも合致するため共用する。

8. 遺伝カウンセリングに関する科目は、国際的な視野を重視するため海外の状況を学び、原則教科書は英語原書を用いる。

## 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

本課程のアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

本課程のカリキュラムを修得でき、修了時に求められる能力を達成できる学生として、入学時に以下の人材を求める。

1. 入学時に、学士相当の知識を有する者、特に人間科学系科目、自然科学系科目、医療系科目の修学に備えた知識を有する者
2. 遺伝カウンセリングの実践、研究の遂行に必須である遺伝カウンセリングに関する論文等を読み内容を理解できる英語力を有している者
3. 医療専門職としてコミュニケーション能力、適性、倫理感、問題解決能力を有している者
4. 将来、認定遺伝カウンセラーとして社会に貢献する強い意志がある者